

森本 和加子さん

出雲の実家訪問 ～出雲大社・ワイナリー1泊2日の旅～

11月12日、木々が色づく美しい秋の日に、喜楽苑の特養に入所されている森本さんとふるさとを訪問しました。森本さんは「お姉さんに会いたい」という長年の思いを抱いておられ、「元気なうちに行っておけばよかった」と話されていました。その思いを知ったご友人（喜楽苑御用達の散髪屋さん）の「一緒に出雲に行こう」という提案をきっかけに、この旅が実現しました。当日は、森本さんと職員3名を含む7名が車で出発。お姉さまや姪御さんをはじめ、たくさんの方にもご協力いただき、心温まるふるさと訪問となりました。

旅の最初の目的地は、森本さんのお姉さまが入所されている出雲市内の特別養護老人ホームです。湖が見える明るいフロアで三姉妹が久しぶりに再会されました。紅葉が美しい景色を眺めながら、手を取り合い、笑顔と涙であふれる感動のひとつに、周囲の職員も胸が熱くなる思いでした。

次に、本家であるご実家を訪問しました。敷地内にあるお父さまのお墓に手を合わせ、感慨深い表情を浮かべられる森本さん。お墓参りの後には、懐かしい自家製の干し柿を召し上がりながら、子どもの頃の思い出に浸られていました。宿泊先のホテルでは、森本さんのために10名の親戚の方々が集まり、夕食を囲んで楽しい時間を過ごされました。「懐かしい話が尽きなかった」と森本さん。久しぶりに顔を合わせた親戚の方々とのお団らんは、笑い声とともに時間があっという間に過ぎました。

帰り道の車窓からは、少し色づき始めた紅葉や雄大な大山の景色が広がり、四季の移ろいを感じながら旅の終わりを迎えました。森本さんは「こんな日が来るなんて思っていませんでした。本当に幸せです。」と、何度もその言葉を繰り返されていました。また、お姉さまやご親戚の皆さまも、「久しぶりに家族で集まることができ、とても嬉しいです。」と、笑顔でお話されていました。

ご家族やご友人と再びつながるひときは、森本さんにとってかけがえのない時間となりました。この旅が、森本さんの心に温かな記憶として長く残り続けることを心より願っております。



尼崎市立金楽寺小学校で福祉の授業を行いました！

小学4年生の児童を対象に、「高齢者の加齢等による身体への不自由さ」を体験してもらいました。手足に重りを付けたり、腰をまげての歩行することで、身体が動きにくいことを感じてもらうこと、穴あきゴーグルを装着し、視野狭窄体験をしてもらいました。「めっちゃしんどい」「動きにくいわぁ」「体が痛い」といった声が上がリ、不自由さを体験することにより、お年寄りの気持ちの理解をすることができたのではないかと思います。このような体験をもって、社会福祉に対する関心をもつきっかけとなり、様々な人たちと、地域で共に生きていく力を育んでいける第一歩となることを願っています。



謹んで新春のお慶び申し上げます。

みなさまにとって、この一年が健やかで実り多い年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

昨年は、元日に能登半島で地震が発生し、多くの方々が不安と困難の中で新年を迎えられました。自然災害への備えや、地域のつながりの重要性を、改めて考えさせられた年でした。世界各地では、依然として紛争が絶えず、平和の尊さも痛感しました。誰もが平穏で安心して暮らせる社会を実現しなければなりません。

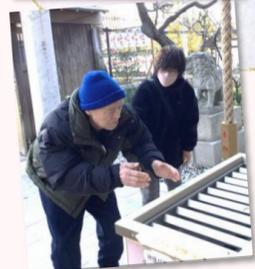
また、物価の高騰やエネルギー価格の不安定さが続き、暮らしや事業運営における課題が、より明確になった年でもありました。一方で、国内外で若い世代の活躍をはじめ、希望を感じさせるニュースも多く、今年も明るい一年となることを願っています。

本年は「2025年問題」の本格化により、高齢者福祉業界にも大きな影響が予測されます。特に深刻な人材不足への対応として、介護AIや見守りセンサーなどの活用や業務改善を進め、職員が働きやすい環境づくりに力を入れているところです。また、外国人職員の採用も視野に入れ、多様性を尊重しながら「喜楽苑らしさ」を守っていきたくと思います。

開設42年を迎える喜楽苑では、建物や設備の老朽化が進んでいます。地域のニーズを踏まえ、改修や再整備を検討しながら、快適な環境づくりにとりくみます。

本年も「ふつ々の暮らし、あたりまえの暮らし」を大切に、入居者・利用者のみなさまやご家族、地域のみなさまに信頼される施設運営をめざします。引き続きご支援、ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

喜楽苑 施設長 堀口 明子



新年祝賀会を開催しました

いつものフロアが紅白幕で彩り、職員やミャンマーからの技能実習職員の晴れ着姿に、「雰囲気いつもと違って、始まる前から楽しみでしようがないね。」と祝賀会が始まる前から楽しみが隠せない様子でした。施設長の挨拶で会が始まり、無病長寿を願ってお屠蘇がふるまわれ、鮮やかで豪華なお節料理に「こんなにいっぱい食べられるかな」と目を輝かせておられました。午後には、ご家族と一緒に初詣に参拝に出かけられ一年の無事を祈っておられました。苑内では、車いす利用されている島山さんは、賽銭箱の前までご自身で歩かれ、娘さまと仲良く参拝されました。気持ちの良い晴天の中、初詣に行き、皆さんと一緒に新春を迎えることができ、大変嬉しく思います。今年も元気で楽しく過ごせますように。